

## 時の流れはスローモーション

学生時代の仲間に、過去の出来事を鮮明に覚えている特性をもつ友人がいました。例えば、数年前のある日、二人で一緒に昼食をとりに入った食堂の様子について、あの店の壁にはこういうものが飾って合って、こっちの棚にはこういうものが置いてあって、隣の席にはこういう人が座っていて、など事細かにその時の現場の様子を明確に語れるのです。私が全く覚えていないことを。特にその日に特別なことがあったわけでもなく、平凡な日常のことなのに。彼のそういった事例は他にもたくさんあって、いつも驚かされました。

あの並はずれた能力はいかなるものかと興味があり、記憶力が抜群な人間として羨ましい思いを抱いてきました。同時に、その能力の正体は、単なる抜群の記憶力だけではかたづけられないとのモヤモヤ感も持ち続けながら今に至っています。

人間の記憶や過去の体験に伴う感覚に関しては、いろいろな知見があります。

### 「映像記憶」

生物が目映った対象を映像で記憶する能力。通称「眼の中へのフォトコピー」とも呼ばれます。これは、私もよく子どもたちに指導する記憶術と重なります。例えば、教科書に書いていることを覚えるには、単語や文章の単体を暗記するのではなく、その教科書の1ページ1ページを、目でシャッターを切って写真のように頭に蓄積する。そのページのあそこにはこういうこと、ここにはこういうことが書かれている、と映像を蘇らせて知識を引っ張り出すのだ、と。

### 「サヴァン症候群」

主に知的障がいや自閉症などの発達障がい等のある人の中で、ある特定の分野の記憶力、芸術、計算などに、極めて高い能力を有する人。もちろん、発達障がい等がなくても、同等の能力を有する人は存在すると言われていています。

因みに、世間で「サヴァン症候群」への関心が高まるきっかけになったのは、1988年公開の映画『レインマン』です。トム・クルーズ、ダスティン・ホフマンの2大名優が兄弟役としてW主演し、アカデミー賞の作品賞・監督賞・主演男優賞を受賞した名作中の名作です。ぜひ、機会があれば観ていただきたい一本です。

### 「デジャブ」

既視感と呼ばれます。実際は一度も体験したことのないのに、すでにどこかで体験したことのように感じる現象です。「確かに見た覚えがあるが、いつ、どこかでことか思い出せない」という違和感が伴う場合が多いと言われています。「デジャブ」だかどうかはわかりませんが、自分も類似する経験はもっています。

因みに、これも映画の世界では、1993年ビル・マーレー主演の「恋のデジャブ」が有名でとてもおもしろい作品です。

さて、今回、なぜこんなことを持ち出したかというところ、令和6年、2024年も残すところ1週間、本当に月日が経過するのは早いものと感じるからです。年々、早く感じます。脳内にある過去の記憶や映像が、忘却の彼方に消えていくのもまたもの凄いいスピードです。

1年が早く感じることを「ジャネーの法則」と呼ぶのだそうです。「ジャネーの法則」とは、「人生のある時期に感じる時間の心理的・主観的な長さは、年齢に反比例する」というもの。

つまり、1歳の時に感じた1年を体感時間で365日とするならば、15歳で感じる1年の体感時間はその1/15の24日、60歳で感じる1年の体感時間は1/60の約6日になります。ですから、私は、生まれたばかりの赤ちゃんよりも約60倍、中学生のみんなよりも約4倍のスピードで時が過ぎていっていると感じているということです。

その理由として、子どもの頃は初めて体験することばかりで、毎日が新鮮で新しい出会いや発見ばかりです。しかし、次第次第に年を重ねていくと、大人になるにしたがって新たな経験の機会が減っていきます。あっという間に時間が過ぎてしまうと感じるのは、日々の生活に新鮮味がなくなるからなのです。

ここで今年度を実施した学校の教育活動を振り返ると、特に学校の外部の方を招いての講演会等の取組(No.6・9は年明け実施の予定)は、下記の通りとなります。

地域・社会・未来とのつながりを意識したキャリア教育の一環でしたが、子どもたちにとって、どれもが概ねたいへん有意義なものだったと確信しています。

	学年	日時	教育活動	内容	講師
1	1年	6/21 (金) 5限	人権講習	認知症サポーター講座	秋葉区・荻川地区 社会福祉協議会
2		7/5 (金) 5限	生き方講話	「私の生き方」	(株)キタック会長 中山輝也 (新潟経済同友会)
3		11/1 (金) 5限	人権講話	拉致問題について	池田正樹 (横田めぐみさんと 再会を誓う同級生の会代表)
4		12/13 (金) 5限	生き方講話	進路の実現	頼間リヨ (漫画家) 他 当校 2012 年度卒業生
5	2年	7/1 (金) 5限	生き方講話	「夢をあきらめない」	太田渉 (元 JAPAN サッカー カレッジコーチ)
6		R7.2月 or 3月 4限	万代太鼓	演奏・実演体験	田村佑介 (新潟万代太鼓 華龍 代表)
7	3年	6/20 (木) 5限	人権講話	「人にやさしく」	森下英矢 (ナマラエンター テインメント企画)
8		11/6 (水) 3・4限	主権者教育 (社会科)	模擬市議会	新潟市議会事務局
9		R7.2/7 (金) 4限	人権講話	多様性と共生	関久美子 (新潟青陵短期 大学 准教授)
10	全校	7/16~24 体育授業内	保健体育	体づくり (チャレン ジ・ザ・ゲーム)	渡辺耕司 (県レクリエー ション協会理事)
11		12/24 (火) 6限	生き方講話	「新聞と私」	小田敏三 (新潟日報相談 役、元代表取締役社長)

私たちが何をしなくても、ただ黙っていても、時間だけはその歩を止めることをしません。そんな中で、一日一日が短く感じるのは、我を忘れて物事に集中している証拠で充実しているのだと考える人もいます。でも、私くらいの人生の後半戦に身を置くようになると、やっぱり楽しいこと嬉しいことを噛みしめながら一日一日が長く感じられる人生の方が、より高い価値だと捉えています。そのためには、常に、ワクワク、ドキドキする経験や自分を刺激してくれる知的・創造的な取組が必要です。学校の教育現場や地域等の諸活動でも、そのための演出が益々重要だと考えます。

令和6年よ、さようなら。「光陰矢の如し」「人生は走馬灯の如し」。実際に空中を飛ぶ矢も、走馬灯の現物も見たことはありませんが、確かに1年はあっという間でした。

大晦日恒例の紅白歌合戦の出場者を見たら、知らない人の方が多過ぎて、時の流れになかなかついていけない私ですが、せめて、せめて中森明菜を出演させてください。受信料を真面目にきちんと払っている一市民の切なる願いです。

そして、彼女にぜひ歌ってもらいたいのは、本稿の趣旨もふまえて、わが青春の懐かしの名曲「スローモーション」。